

## 第26回教育課程編成委員会

日時：令和8年3月26日（木）13：30～14：30

場所：下関福祉専門学校3階

### 出席者

|        |                 |         |
|--------|-----------------|---------|
| 早川 弘之  | 社会福祉法人下関社会福祉協議会 | 在宅福祉課長  |
| 富田 陽治  | 一般社団法人山口県介護福祉士会 | 下関ブロック長 |
| 竹永 裕子  | 社会福祉法人菊水会       | 相談室長    |
| 関谷 豊   | 下関福祉専門学校        | 校長      |
| 長本 幸子  | 下関福祉専門学校        | 教務主任    |
| 安田 富美代 | 下関福祉専門学校        | 専任教員    |
| 木村 薫   | 下関福祉専門学校        | 事務局     |

以上順不同敬称略

### 1. 開会

挨拶 下関福祉専門学校 校長

今年度の卒業、入学の状況報告

令和7年度卒業生24名（うち留学生：※4名）

令和8年度入学生21名（うち留学生：※4名）※ミャンマーより

令和7年度の卒業生24名は、無事に100%、全員が就職を達成した。

また、来年度の入学生は計21名であり、うちミャンマーからの留学生が4名である。

新聞報道等によると、養成校卒業後は介護福祉士として登録はできるが、就職している5年の内に国家試験に合格する必要がある。つまり介護福祉士としての名称を用いながら5回は受験のチャンスがあるということを経験校のメリットとして捉えたい。福祉の現場を守るためにこれからも頑張っていきたい。

下関学院グループの姉妹校に立修館高等専修学校があるが、6年間連続で第一次募集で定員いっぱいになるほど、近年とても人気がある。令和7年度はeスポーツ部が世界大会で世界一位になり、山口県知事、下関市長に表敬訪問を行った。実は立修館の新入生の一番人気は今年度は福祉科であった。その多くは保護者が福祉の仕事をしている家庭で、おそらく福祉業界で働く保護者からやりがいのある仕事であると感じ、希望しているのだと思う。

福祉の仕事には大変なこともあるけど楽しいこともある、やりがいもある、そういうことを学生に伝えていきたいと考えている。

### 2. 委員の出席状況の確認

委員全員出席の確認をする

### 3. 今年度の教育目標評価及び課題

（1）介護が必要な対象者の特性を理解し、挨拶や礼儀を通して尊厳とは何かを考え、個々の倫理観を形成することが出来る。

1学年目標：挨拶や礼儀を通し、尊厳について考えることが出来る。

評価：学生によって個人差が大きく引き続き指導が必要な学生がいるが、概ね達成できたと思われる。卒業論文発表会に参加し、改めて尊厳について考えることができた。

2 学年目標：介護が必要な人の特性を理解し、その人らしさを尊重した介護を提供する中で、個々の倫理観を形成することが出来る。

評価：日々の学生生活だけでなく実習先での経験を通して、その人らしさを自分なりに考えることが出来、自らの倫理観を概ね形成することが出来たと考える。

(2) 対人関係の基礎となるコミュニケーションの方法を学習し、チームの一員としての役割を理解することができる。

1 学年目標：さまざまなコミュニケーション方法を知り、チームケアの大切さを学ぶことが出来る。

評価：実習先でコミュニケーションの重要性を学び、チームケアにおける報告、連絡、相談がいかに大切かを学んだ。校内で意識して取り組む様子が見られた。

2 学年目標：TPO を踏まえたコミュニケーション技術を駆使し、チームの一員としての自覚をもって行動することが出来る。

評価：コミュニケーション能力の高い学生と苦手な学生に差が出ており、頭では理解しても、チームの一員として自覚を持って行動することが困難な学生もおり今後も指導が必要。

(3) 介護実践に必要な知識や技術を学習し、援助の根拠を理解し、専門職としての役割を学ぶことが出来る。

1 学年目標：介護実践に必要な知識や技術を学習し、介護福祉士の役割を認識することが出来る。

評価：訓練生や留学生の学習意欲が高く、周囲に好影響を与えている。反面他人任せの学生もおり、介護福祉士の役割を根気よく指導してゆく必要が感じられた。

2 学年目標：学んだ知識や技術を実習に活かし、専門職としての役割を考えた行動をとることが出来る。

評価：個々の援助の根拠を自分なりに考え意見を述べる事が出来たが、技術的には未熟な部分も多く、全体的に積極性が欲しいと感じた。

#### 委員からの質問

◇A 委員 特段に意見はなし。要点、ポイントをよく押さえている。

介護の現場において、例えば認知症の方に対して、相手の尊厳を軽んじることをしないようにすることが大事。今は病気だとしても、その方のそれまでの人生の背景を忘れずにいること、さげすむような言動をとらないことが大切だと思う。その点をよく押さえられていると思う。

◇B 委員 認知症の方も好きでなったわけではないということ。自分の家族も認知症だが、身内がなると大変。仕事だからできる、という点もあると思う。チームワークももちろん大切。

教育目標 3.の2 学年、「技術的には未熟な部分も多く、全体的に積極性が欲しいと感じた」とあるが、技術的に未熟とは？技術は学校でしっかりと教えているのではないか？

#### ※二年担任より

授業での取り組みに対して、留学生はとても必死であり積極的だが、苦手な学生は自分の順番になってもやりたがらない。2年、1年ともその点は課題だと思う。

◇C 委員 コミュニケーションについては、まずは話が続く利用者、話しやすい利用者と話することで自信がつく、ということもあるので、それも一つの手であると思う。

また、教育目標の3.の1 学年、「半面他人任せの学生もおり、介護福祉士の役割を根気よく指導してゆく必要が感じられた」とのことだが、それは職場でも同じようなことはある。自分の仕事ではないと逃げる人はいる。

◇理事長 ミャンマーからの留学生はとても優秀である。国に帰れない事情もあり、一生懸命である。留学生を見習い一般生も頑張っている。訓練生も年齢は高いが、よく頑張っている。

※二年担任より

学生の個人差が大きいと感じる。靴紐の結び方から教えないといけない学生もいる。自分なりの根拠、自分の考えをしっかりとと言える人になって欲しいと思う。

#### 4. 今年度の「福祉と文化」

※二年担任より「福祉と文化」の説明

前回との違いは山口県労働委員会による「働くためのワークルーム」と以前に行っていた「マジック」が久々に復活したことである。

◇理事長 「福祉と文化」の中で「職業倫理」をご担当いただいた委員に対し）  
授業の中で学生たちはどうでしたか？

◇委員 今回は、所用で違う者が担当したが、どうだったかは聞いていない。

※二年担任より

学生は喜んでいて、お金のことに對しても教えていただけたのでありがたかった。

◇理事長 「働くためのワークルーム」については、県からの依頼で今回初めて取り入れた。

※二年担任より

「働くためのワークルーム」については、学生に対して、仕事をするにあたっての権利の話から入る内容だったので、正直どうかと感ずるところもあった。

◇委員 仕事について、あまり権利の話から入られると現場では困る。実際には、ちゃんと食事が取れないこともあるし、休憩もしっかりと取れない時もある。だが、利用者は多くの目で見守る必要があるのが現状。

※二年担任より

学生は何度か実習を経験して、実際に休憩をあまり取れないことを知っているの、労働委員会の話を聞いてびっくりしていた。

◇理事長 「昭和史」と「昭和の歌」は学生にとても人気があるようだ。

◇委員 童謡は今の人は知らないと思うので、良いと思う。

※二年担任より

留学生については、「着付け」の講義にとても喜んでいて。また、「口腔ケア」はとても為になるし、今回も人気があった。

◇理事長 一年担任からは何かないですか？

※一年担任より

特になし。みんな楽しそうであった。

◇委員 介護の仕事には、大変なうえに給料が低いというイメージがあるようだが、この仕事を志して良かった、と感じてもらえるよう頑張りたいと思う。

◇理事長 「卒業生との交流」は、内容的にはとても良かった。

※二年担任より

給与の面など、色々と話をしてくれ、とても好評であった。卒業生が人前でしっかりと質疑応答する姿に涙が出そうになった。

◇委員 レクリエーションは取り入れると良いと思うがどうか？

※二年担任より

実際に授業でやっている。

◇理事長 介護予防ではしっかりと介護福祉士会に入るよう伝えてくれていますか？

◇委員 伝えてはいるが、人数は減ってきている。70代の方が徐々にやめていく。研修への参加も少ないのが現状。

※二年担任より

2年生が10名ほどバーベキューに呼んでいただいた。留学生も参加し、喜んでいた。

◇理事長 介護の仕事は世の中のイメージよりも良い仕事だと思う。給与の面でも以前よりは良くなってきている。

◇委員 自分たちの研修をする時には実践が入るとやはり楽しいと感じる。座学も大事だが、実技も必要だと思う。

5. 各委員からの要望

◇理事長 意見や要望など自由にいただきたい。

◇委員 障がい者は公民館等での講座などを自由に受けられない。そういう方たち向けの講座を色々と実施しているが、障がい者の方たちも真面目な内容ばかりではつまらない。eスポーツとコラボしてみたいと思っている。

◇理事長 下関学院グループ内の大人の学校デイサービスセンターでもeスポーツを取り入れたりしている。障がい者の方への楽しさの切り口として、きっかけ作りにとっても良いと思う。

立修館の卒業生の中には、eスポーツ特待で大学進学し授業料の免除を受けている生徒もいる。時代を感じる。

◇委員 下関で研修も実施していますので、ぜひ。

※最後に二年担任より

今の学生は、1から10ではなく、20を伝えてやっと一つのことがつながるような、そんな学生が多いように感じる。本日はありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

※次回の委員会開催の日程については、8月中旬以降を予定。